

平成31（令和元）年度 学校評価表（最終）

学校教育目標 一歩前へ！果敢に挑戦 一夢を志に一

ミッション 「西中だからこそ」の

ビジョン 信頼され誇れる学校

A：達成 B：概ね達成 C：もう少し D：できなかった

海田町立海田西中学校

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標 A:達成 B:概ね達成 C:もう少し D:できなかった	目標達成のための具体的方策	評価結果	自己評価			学校関係者評価 コメント	
							評価点	成果○と課題▲	改善策		
確かな学力の育成	学力で一歩前へ果敢に挑戦	○夢を志にする力の育成	各種学力調査で全国平均値を超えることができる。 ※3年:全国学力・学習状況調査【国、数、英】 1年,2年:CRT(標準学力検査)【国社数理英】とする。	A:全教科 B:80%以上(11教科以上) C:60%以上(8教科以上) D:60%未満(7教科以下)	・全教職員で本校の課題を共有化し、個に寄り添った学習支援をするために、「学習定着週間」や長期休業中の補充学習を行う。 ・各種テストにおいて、生徒実態を把握し、PDCAを行い授業改善につなげる。	3年 全国学力・学習状況調査 国語 (+11.2) 数学 (+17.2) 英語 (+6.0)	中間	A	○4月に行われた全国学力・学習状況調査では、3教科とも全国平均値を大きく上回り、特に国語・数学では10ポイント以上上回ることができた。 ・引き続き、全学年とも学習に対して苦意識を持って生徒に最後まで粘り強く学習に取り組めるよう全教職員でチームを組んで当たっていく。	○全体的に成果は良く出ている。 ●低い学年がある。各教科の因果関係を含めて要因分析と対策を講じてほしい。 ○引き続きお願いしたい。 ○低い教科もあるが、その差は平均とわずかの差であり、他教科はすべて平均を超えていることを評価したい。 ●改善策が抽象的であるが、担当が具体策を具現化することを期待する。	
			○授業力の向上	①授業では、解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないか」と予想しています。②授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝えるように発表をくふうしています。③振り返りを行っています。④答える生徒の割合が前年度を上回る。(※③については新規。1回目調査と最終調査の比較とする)	A:5ポイント以上 B:1ポイント以上～5ポイント未満 C:県平均 D:上回ることができなかった	・西中授業システムをベースに課題の発見と解決を目指した授業づくりを行う。 ・ICT活用で目的意識を明確にし意欲を高めグループワーク(GW)を効果的に取り入れる。また、板書や教材の提示方法を工夫するなどの視覚支援を行う。 ・校内研修会を行い、すべての教員が授業改善の視点に基づいた単元開発を行う。	1・2年CRT(標準学力調査) 1年 国語(+5.9) 社会(+5.2) 数学(+13.9) 理科(+4.7) 英語(+9.4) 2年 国語(+0.1) 社会(+0.3) 数学(+9.9) 理科(-1.2) 英語(+5.1)	最終	B	○1月に実施したCRTの調査で、2年生理科を除く全教科で全国平均を上回った。 ▲2学年の結果が理科だけでなく全体的に低めである。	・個に寄り添った学習支援をするために全教職員による「学力定着週間」をバランスよく全学年に振り分け、学力のレベルアップを図っていく。 ・テストの結果を細やかに分析し、授業改善につなげていく。
豊かな心の育成	豊かな心で一歩前へ果敢に挑戦	○生徒会活動の活性化	委員会活動の取組に積極的に協力、参加したとする生徒を80%以上にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・委員会活動の取組が生徒一人一人のものとなるよう、各委員会は取組の進捗状況並びに成果と課題を明らかにさせていくとともに、地域・保護者へ発信する広報活動をさらに推進していく。 ・委員会の取組に則り優れた学級、生徒へは積極的に全体の場で肯定的評価を行う。	評価項目の肯定的評価は87.9%であった	中間	A	○一学期に各委員会が行った取組は多くの生徒を巻き込んだ活動となった。 ▲「だいたい参加協力できた」が約45%、「あまり参加、協力できなかった」が約9%あり、全体的な底上げを図っていく必要がある。	委員会の取組んだ成果を全体の場で肯定的評価をしていく場面を仕組んでいく。	●良い取組があるので、もっと情報発信をしてほしい。 ○文化祭などすばらしい。 ○生徒会を中心にした自主的な運営が良かったと思う。 ○文化祭、体育祭とも生徒達が準備し活動しているのはすばらしいことなので続けてほしい。 ○生徒の自主性による活動の活性化ができるよう指導をお願いします。
			○道徳的実践力の向上	生徒の自尊感情を高める肯定的な回答を全校で80%以上にする(QUアンケート「みんなのためになることを自分で見つけ実行している」項目)	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	・あらゆる教育活動において、生徒がポジティブに自己を捉えるよう、タイミングの良い肯定的評価を学校、保護者、地域が一体となって行う。 ・体験活動の意義を説明し、生徒に意欲を持たせる。	評価項目の肯定的評価は82.5%であった。 評価項目の肯定的評価は84.8%であった。	中間	A	○前期に比べて、「だいたい参加協力できた」が-2.6ポイント、「まったく参加、協力できなかった」が-1.4ポイントとなり、全体的な底上げができたと考えられる。 ○一学期に行った体育祭をはじめとする教育活動において、一歩前へ、果敢に挑戦している様子が見え始める。 ▲1,3年生において回答3「ときどきしている」が約44%いる。また3年生において回答1「ほとんどしていない」が10.3%いる。	2学期以降の学校行事をはじめとする教育活動において、生徒の活躍する場面を多く取り入れ、その肯定的な評価を行っていく。
体健やかな育	たくましい体で一歩前へ果敢に挑戦	○体力の向上	体力テストで、体力項目の80%以上、全国・県平均を上回る項目がある。	A:80%以上(48項目中) B:70%以上80%未満 C:60%以上70%未満 D:60%未満	・各自目標値を持って取り組ませる。 ・弱点補強を授業とリンクさせる。	全体 42/48・・・87.5% 1年男 6/8 1年女 6/8 2年男 7/8 2年女 7/8 3年男 8/8 3年女 8/8 ※H30県平均、H29全国平均との比較である。11月にR01県平均、H30全国平均は発表される。	中間	A	○各自昨年度の自分の記録を参考に、今年度の目標をもってまた、総合判定A評価をめざして計測に取り組むことができた。 ▲昨年度と比較して、50m走に課題がある。	保健体育科の授業の中で補強運動を実施し、体力向上を図る。また、3学期には弱かった体力種目を再度計測し、伸びを確認する。	○良くできている。 ●昔と違い、勉強と運動とを向上させるには時間が少ない中、どう向上させるか引き続き取り組んでほしい。 ●学校の授業だけでは難しい。 ●多角的に「体力」を捉え取り組むべきである。
誇れる学校	生徒、保護者、地域が誇れる西中に	○情報の受信・発信の充実	「子どもの学校の現状について」の満足度が昨年度を上回る。	A:すべての学年が昨年度以上 B:一部の学年が昨年度以上、どの学年も昨年度未満はなし C:昨年度と同じ(90%) D:昨年度を上回ることができなかった	・外部の方に学校の取組ややりきる生徒、関わりきる教職員の姿を実際に見ていただく機会をふやす。 ・HPや学校便り等で生徒・教職員の前向きな姿を発信する。	1年 87.0%(87.9%) 2年 87.3%(84.2%) 3年 92.5%(100.0%) 全体 88.6%(90.4%) ※()は昨年度	中間	C	○HPは随時更新し、学校だよりをはじめとした各通信で、生徒・教職員の前向きな姿を発信することができた。 ▲数値は昨年度を下回ったが、すべての学年で87%を超えている。	7月の調査に対する回答率が78%で、1・2年生は80%を超えたが、その分3年生は低かった。回答してもらったため、期末懇談の待ち時間を利用するなど、工夫をした。また、「不満」と回答したのは、1.6%であった。否定的な人数は、全校生徒238名で計算すると約30名である。生徒を通じて、信頼される学校をアピールしていきたい。	●元々の評価指標の設定が高すぎるのではないかと。生徒が作るHPも魅力であるが、今の学校だけでも活動の様子は良く伝わる。 ●学校と関わりの薄い地域住民は、情報が入らないので、情報発信に工夫をお願いします。 ●不満と回答した方の理由を明確にしたい。 ○生徒会執行部からの発信を期待。
			働いて良かったと思える西中に	○働き方改革の推進	①生徒と向き合う時間が確保できているという教員の割合を70%以上にする。 ②時間外勤務の時間を前年度比20%以上減とする。	①A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 ①A:20%以上減 B:15%～19%減 C:10%～14%減 D:10%減未満	・組織的な運営を推進し、業務の効率化。 ・定時退庁日の実践。	①「A」約90%が肯定的であった。 ②「B」昨年度における4月から8月までの時間外勤務は、毎月一人あたり53.0時間に対し、今年度は43.2時間であった。19%減である。	中間	B	○HPの更新は、月に2回来校するICT推進担当が行った。 ○配布物の印刷や教材準備等をSSSに依頼できたことや、協働できる雰囲気がこの数値につながっている。 ○時間外勤務が19%減になったことは、大きな前進であると捉えている。
						①「A」75%が肯定的であった。 ②「A」昨年度における4月から1月までの時間外勤務は、毎月一人あたり52.6時間に対し、今年度は42.0時間であった。20%減である。	最終	A	○引き続き、配布物の印刷や教材準備等をSSSに依頼できた。また、「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある。」の項目で90%をわずかに超えた。 ○時間外勤務が平均で20%減になった。引き続き早期退校を呼びかけていきたい。	○12月の校内企画委員会において、各主任が校内分掌組織を見直すようにし、生徒も感じるので、今以上に職務の効率化を期待する。 ○企画委員会のPDCAもすばらしい。	